

ともいき科の基本方針と取り組みの年間構想

0. ともいき科とは『共生』（＝様々な人と『共』に『生』きていくこと）を学ぶ教科であり、そのために必要な『生きる力』を、**体験的に身に付けさせる**ことを目的として創設された科目である。ここで、様々な人とは幼子であり、下級生であり、同級生であり、先輩であり、大人であり、お年寄りである。また、世界に目を向ければ外国の人である。**こうした人達と関わりながら自他ともに豊かな生活を築いていける人間を育てたい！**ともいき科創設の目的は実にここにある。ところで、今生徒が生活している場所は日南町である。様々な人とは先ずもって日南町の人達である。そうでなければ、ともいき科創設の目的は、**現実と没交渉な理想（抽象）に墮して、スローガンの域を出なくなってしまう**。大切にすべきは日南町であり、日南町の人達である。その際、『大切にする』ということの具体的な姿を、どのように考えれば良いのだろうか。現在日南町は『2040年問題』を抱えている。日南中生として、この問題とどう向き合えれば良いのだろうか！？日南中生の『今』出来る貢献はないのだろうか！？この課題（→ **地域の中にある学校の具体的有り様**）を切り口にして、ともいき科の具体的な取り組みを創造していくことが、目的実現に向けての重要な鍵となってくる。

◎日南中生の『今』出来る貢献：中学生の活動を通して日南町の人達を元気づける！
（今出来る『日南町の人達を大切にする』ということの一つの具体的な姿）

1. ともいき科の目的

様々な人達と関わりながら自他ともに豊かな生活を築いていける人間の育成
その為の具体的なねらい

- ・ **日南町を大切に思う心や持続可能な日南町を築こうとする態度**の育成
（→ともいき科創設の『願い』）
 - ・ **関わり合いを軸にした『生きる力』**の育成（→身に付けさせたい『3つの力』）
 - ・ コミュニケーション力、コラボレーション力
 - ・ プレゼンテーション力
 - ・ 企画・運営力
- 『生きる力』の具体 =

2. ともいき科創設の『願い』と身に付けさせたい『3つの力』の関係と、その育成

日南町との繋がりを大切に思う心や、日南町の未来を築いていこうとする態度は、どのようにして育まれるのであろうか。人は、**他者から本気の賞賛や信頼、期待や好意を受ける**ことによって、自分が他者にとっての大事な存在になっていることを実感する時、心に込み上げ、溢れてくる“熱いもの”を体感する。こうした体感の蓄積は、自分を大事な存在とみってくれる他者を、自分にとっての特別で大切な人にしてくれる（→ **日南町との繋がりを大切に思う心の素地**）。当然のことながら、そうした他者を大切にしていこう!!という気持ちも芽生えさせてくれる（→ **日南町の未来を築いていこうとする態度の素地**）。そして、こうした心が何かを切っ掛けに頭れてくる際に**生きて働いてくれるもの**が、身に付けさせたい3つの力であろう。

この『願い』に裏打ちされた『3つの力』こそ、『生きる力』となり得るものである。それでは、願いの実現と3つの力の育成は、如何にして可能となるのであろうか。しかも、一つのことに取り組むことによって、この目標の達成に迫っていきたい。

他者からの本気の賞賛や信頼、期待や好意は、只待っていて得られるものではなく、こちらから**他者に向けたアクション**を起こして初めて得られるものである。他者に感動を与えて喜んでもらい、元気付けてもらった!!という感謝の念を他者から引き出し得た時、得られるものである。その為のインパクトのある活動として位置づけられるものが、ふる里まつりにおけるステージ発表であり、合唱を通じた保育園や老人施設訪問の取り組みである。この取り組みを如何にして成功に導いていくのか。この点について、**教師と生徒が一緒になって具体的に考え合っていくプロセス**が、正に**身に付けさせたい3つの力が磨かれていく絶好の機会**であろう。

○ 取り組みを成功に導く視点

- ・如何にして発表や展示をする作品の質を高くしていくのか。
- ・如何にして日南町の人達の集客を実現していくのか。

◎ 自分達の力の結集による『作品』の発信を通じて、日南町へ貢献していく。

→日南町民の人達の反響の大きさを実感することで、自分達の『力の結集』の素晴らしさを体感する。(→ 自信の湧出 = 自己肯定感の増大)

※本物志向の作品であることが必須条件

『中学生は頑張っている!』ではダメで、『中学生がここまでやれるのか!』を目指す。そのために起業学習で学んだ“発想”や“ノウハウ”を実践的に活用していく。

- ・ 起業の発想 : 今現にある物やサービスに新たに見出した意味付けをして、付加価値を創出し、それをお客に提供してお客の満足を引き出すことにより、それ相応の報酬をお客から獲得していく。
- ・ ノウハウ : お客の周知を如何にして実現していくのか。
お客の満足を如何にして高めていくのか。

3. 取り組みの年間構想～ 『ともいき科』と『育心活動部』とのコラボレーション～
(※育心活動部のねらい : 関わり合いを軸にした感動の創造と共有)

○ 全校生徒による取り組み～ 関わり合いを通して『心の響き合い』を目指す～

・ 育心活動関係

入学式 : 歓迎の言葉の中に、自分達にとって校歌がどんな意味をもっているのかを、盛り込み、上級生から新入生へ、(校歌の)歌声をぶつける。

※卒業式後に練習を入れていく。

宿泊研修：校歌練習を研修の重要な柱に据える。

※宿泊研修の練習で磨いた校歌を先輩に披露することにより、1年生の結集力の素晴らしさを示す。（合い言葉：**先輩たちの耳を疑わせよう！**）

新入生オリエンテーション

上級生：会の運営力、部活紹介等の迫力や面白さで、新入生を圧倒する。

新入生：宿泊研修の成果を上級生にぶつける。

全校生：校歌を全校生徒で歌うことにより、一体感を実感する。

- ・ともいき関係：プレゼンテーション力
- 2年生：**松江エキスカーションの調べ学習**
- 3年生：**修学旅行の調べ学習**

球技大会：親睦を主にした取り組み

壮行会（部活動の取り組み）

西部地区総体（県総体）

- ・ともいき関係：コミュニケーション力
- 全学年：**シアトル交流**
- ※1年は中期ブロックとして、2・3年は後期ブロックとして取り組む。

体育祭

※縦割り活動のメリットを最大限に活かす！

- ・育心活動関係：運動面での**感動の創造と共有を図る最大の機会**

- ・ともいき関係：企画・運営力
- 3年生：運営力を磨く場

※詳細は職員会でとも育委員会より順次提案。

留学生交流

- ・育心活動関係：感動の創出と共有

“ふるさと”（歓迎）と“校歌”（送別）の歌声を、留学生の心に響かせることで、一体感を創出する。

- ・ともいき関係：コミュニケーション力
プレゼンテーション力
- 留学生のアドバイスに基づき、留学生の母国について調べ、その紹介をプレゼンしていく。

※詳細はともいき科より、8月定例職員会で提案。

お年寄り・保育園児交流

- ※ 合唱コンクールに向けた取り組みを、お年寄りや保育園児との交流に転用し、相乗効果を狙う。
 - ・ 育心活動関係：活動のモチベーションアップを図る
 - ・ ともいき関係：コミュニケーション力
あり合わせのものに新たな意味を付加することで、別の価値（心の響き合い）を生み出していく。
- ※ 詳細は、ともいき科より8月定例職員会で提案。

文化祭（＝ふるさと祭りとのコラボレーション）

- ※ 起業学習の発想に学んだ視点から**従来の文化祭を捉え直して**質の高い作品を創造するとともに、**起業学習のノウハウ**を活用して文化祭の活性化を図る。
 - ・ 育心活動関係：文化面での**感動の創造と共有を図る最大の機会**
 - ・ ともいき関係：コラボレーション力
コミュニケーション力
プレゼンテーション力
- ※ふるさと祭りとのコラボにより生まれるものを体感することにより、**コラボすることの良さを実感する。**
- ※ 詳細は職員会でとも育委員会より順次提案。

球技大会：執行部（PR・条件整備）と体育委員会（運営）が**コラボして取り組む。**

- ※ 文化祭までの取り組みのバロメーター
- 感動の共有体験を体感した者同士が球技で楽しむ。そこには、盛り上がりの違いが顕在化して当然であろう。

卒業合唱（＝卒業式に向けた取り組み）

- ※ 文化祭までの取り組みの質により、この取り組みのモチベーションが決まる。
- ・ ともいき関係：プレゼンテーション力
- 2年生：**松江エキスカーシヨンの調べ学習**
- 3年生：**修学旅行の調べ学習**

入学校歌（＝入学式に向けた取り組み）

- ※ 卒業合唱の成否が鍵！